

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員研修の中で事業所の理念に触れ、理念に基づいた目標を掲げている。	開設後9年目の事業所で開設時からの理念を掲げている。昨年2月に現在のホーム長就任時に現況に沿った内容となっているか、時間をかけ職員との面談を行い、コミュニケーションを重視し利用者、職員が「いつも笑顔で過ごせる」、「利用者の尊厳を守る」を大切に検討しているところである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には地域住民の方から多数参加いただいている。また、町内の会合や行事にはできるだけ参加する様に心がけている。	街中に立地している事業所のため近隣住民が限られており行事自体が少ない地域ではあるが、町内会に加入や今年は開催が見送られた祭り行列の観覧等、何かあれば積極的に参加していこうとする姿勢は窺える。今後は事業所から地域へのアプローチの方法も検討していこうと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会、民生委員との連携を図り、相談窓口となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に定期的に開催しているが、こちらからの報告や取り組みについて意見交換をし、様々なアドバイスや意見をいただいている。会議の内容については職員にも伝達しサービスの向上、改善に努めている。	2ヶ月に1度開催される会議には、自治会長、民生委員、ご近所の方数人、関係機関職員、回によっては利用者家族の参加者がある。それぞれの立場から意見が出され運営に活かされている。災害時の心配、避難場所の確認等の意見も出され、今後は交番、消防署からの参加依頼、利用者、職員の参加も検討し、より運営に則した内容が検討されサービス向上に繋がるよう考えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業を運営する上で疑問点等を伝え、助言をいただく等、連携を取っている。	市との連絡、やり取りは、基本メールで行うようになっている。今回の外部評価調査の延期の確認や事故報告等、直接連絡を取り合い、必要に応じて出向く事もある。現在は大きく問題となる事案はないが何かあれば相談していく姿勢である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、ユニット出入り口、玄関の施錠は原則的には行わず閉塞感を与えない様に努めている。但し階段につながる出入り口については、転落の危険が大きいため普段は施錠しエレベーターの使用をお願いしている。	原則、日中は施錠はしないが基本であるが、離設の案件が一度あり、その後は職員が手薄となる短時間のみ1階ホール、他利用者の安全確保として必要最小限の施錠をすることはある。3ヶ月毎に職員に対してアンケートを実施し日々の支援の振り返りの機会を設け、職員が連携しチームで支え、利用者の気持ちに寄り添う介護がなされるよう努めている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員とも研修等を通して学び対応防止に努めている。	身体拘束と共に虐待については、職員全員理解している。繰り返しアンケートを実施することにより、職員自身、他職員の言動にも気を配り利用者に接するように心掛けている。系列の他グループホームのヒヤリハット、事故事案の検討内容を基に事業所でも検討する等、起こり得る事案についても未然に防ぐような取り組みがなされている。	法人全体としても事業所独自としても、職員が順番に外部研修に参加できる等、研修の機会を増やすことにより、職員意識の向上に繋がり支援の取り組みにも活かされる事に期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員とも研修等を通して学び、利用者様、ご家族様の支援ができる様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明を行い、ご質問等にはお答えし理解・納得をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し意見を伝える事が出来るようにしている。運営推進会議に家族より参加いただき意見・要望等を直接聞く機会を設けている。	受診の介助時、面会時等で家族が訪問時、電話等でも、どの職員が対応しても、必ず日頃の様子を伝えるとともに、希望、要望等を伺うようにしている。頂いた意見は職員間で検討し、対応するとともに時間を置かず家族に返すようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は朝礼、会議、ミーティング等を通し職員からの意見等を聴き吸い上げるように努力している。また管理者は会議を通して代表者に対して職員の意見等を伝える機会がある。	ホーム長は職員との対話を大切に考えている。朝夕の申し送り時、会議、ミーティング時のみならず、時間を見つけては、随時面談を行うよう心掛けている。職員からも多く意見が出され、事業所内だけでは決められない場合は、代表者に伝え解決できるような仕組みとなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は全職員に資格取得を奨励し資格取得者には祝い金や資格手当を支給し、励みとなるような制度を設けている。また夏季休暇冬季休暇をそれぞれ3日ずつ支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で職員教育の為研修制度を設け力量に添った研修を受ける事ができるようにカリキュラムを組み立てている。外部研修も随時予定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3カ月に一回、グループホーム4事業所合同の研修会を行っている。管理者や職員は研修を通し、交流する機会があり、互いに見学や意見交換を行いネットワークを広げ交流している。		

自己 自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問等をし家族の意見や本人の気持ちを伺い、安心して暮らせる為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と話し合い、今までの生活状況や不安に思っている事等を聞き取りながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いが異なることもあるが、間に入って調整しながら方向性を見つける努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の生活を支えるという事を重視し、本人のできる事、介助すればできる事を見極め、生活全般に関わる事に対しその方に応じた支援を行っている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの様子を居室担当者よりお便りという形で月に1回家族に報告している。また居室担当者を中心に家族と連絡をとり共に支えていく関係づくりをしている。	家族の面会が多い。遠方の家族は電話で連絡を取りあっている。家族は常に利用者に関心を持ち、依頼事など対応はまめにされている。受診はほぼ家族介助であり、外食やお墓、仏壇まいり、馴染みの理美容院に連れて行かれるなど、それぞれの家族はできる範囲で支援している。事業所からも月に1度ホームでの様子をお便りと共に送付し家族からも喜ばれている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が訪ねてきた際のおもてなし等を通して、次回も訪ねやすい雰囲気作りを大切にしている。また手紙を出すための支援等も行っている。	家族送迎で同窓会に出席された利用者や友人、知人が訪問し、自室で会話を楽しまれる方、馴染みの菓子店への買い物、手紙を出したい方等々、必要に応じて職員は支援し馴染みの関係継続に配慮した支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態や対人関係を観察しながら時には間に入り、和やかな雰囲気が作れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お便り等を通して交流を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話や言動の中にヒントを見つけ、思いに添った支援ができるように心掛けている。また家族からも情報や意見をいただく様にしている。	入居前の訪問時に基本情報シートを基に本人、家族から希望や意向を詳細に聞き取り記録している。また入居後の日々の生活から見えてくる気付きや言動、表情をも見逃すことなく記録し、その人らしい生活が送れるように全職員で共有している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人、家族からの聞き取りや普段の会話の中から把握できるように努めている。	入居前に確認した情報と家族からもセンター方式のシートを記載していただき、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らしを把握している。全職員も気持シートを記載することで利用者一人ひとりの思いが見えてくることが多くある。前任のケアマネージャー、サービス事業所からも情報提供してもらい、環境の変化の重要性を受け入れ、入居後の生活が安心できるように努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当者を中心に一人一人に目を向け、小さい気付きの積み重ね情報の共有をし個々の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は本人、家族、居室担当者から聞き取りを行い、定期及び必要時に検討会を開催している。	本人、家族の意向を確認してケアマネジャーと居室担当者が中心となり介護計画を作成している。モニタリングは毎月居室担当者が実施している。年に一回は計画書を見直し現状に即した介護計画を作成している。担当者会議開催時には、本人、家族の意向や希望を確認し本人の言葉を引き出しプランに反映している。また、職員の気付きや意見をも参考に利用者主体の介護計画となるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を個別に作成している。特変時等には別に記録し申し送りも行い情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部サービスの導入としてニチイの家事代行サービス通院介助等を活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や自治会等を通して近隣住民の方からは入居者の様子を承知いただいております。地域の夏祭り見物に際しては椅子を用意していただいたりし配慮いただいております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には医療連携表を用いてホームでの様子のかかりつけ医に伝達し、適切な指示を仰ぐ等連携を図っている。	本人、家族が希望するかかりつけ医を尊重している。受診時には医療連携表を用いて情報を提供して、主治医からも意見を頂き、全職員で共有している。看護師による週一回の健康管理や主治医との連携、24時間のオンライン、専門医への受診の助言や家族への状態説明等も行っており、適切な医療が受けられるように整備されている。薬剤師からも薬の管理や配薬の支援も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が定期的に訪問して日頃の様子や状態を把握しやすいように専用の用紙を使いお互いに情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への情報提供やソーシャルワーカー等に対し情報交換や相談の機会を設けてもらう様にしている。入院中はできる限り面会に訪れる事で安心していただけるように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前及び必要時に事業所でできる事の説明を行っている。心身の状況や様子の変化等については家族と情報を共有し係りつけ医との連携がとれる様に努めている。	入居契約時に「重度化対応、終末期ケア対応方針」について、事業所として出来る事、出来ないことの説明を行い同意を得ている。本人、家族、医療、職員との協力体制を図りながら、対応や方針を決定し、利用者や家族の安心に繋がる協力体制を整えていく方針である。家族の思いを受け入れて、本人の状態に応じた病院や施設入所への推進支援も支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習を適宜受講する事になっている。	急変時や事故発生時のマニュアル、伝達通報も整備され全職員は周知している。看護師からも観察ポイントを教えてもらい注意喚起している。AEDの講習会、事故発生時や初期対応の訓練を定期的実施して実践力を身につけている。夜間は番番の職員が電話にて待機番をしたり、ユニット同士の緊急時の連携体制も整っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に実施している。	事業所内で年2回夜間を想定した避難訓練を消防署立ち会いの下で実施している。マニュアルの作成や消火器の使い方、避難場所、避難経路の確認等を全職員に周知徹底を図っている。地域住民の参加や地域の避難訓練への参加はないのが現状である。非常食や備品、利用者情報も整備され、ユニット同士の連携体制も整っている。	住宅街にある事業所は2階建てであり、災害時の避難には職員だけでは困難が予想される。運営推進会議に参加している町内会長や地域住民の理解と協力を得ながら、避難訓練の地域住民からも参加してもらえる協力体制作りの検討を期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修等を通して皆で考えた指針をスタッフルームの見える箇所に掲示している。	接遇やプライバシー保護の研修会に参加して全職員は徹底している。利用者一人ひとりに合った言葉かけや対応、距離感にも配慮している。日常のケアの中で不適切な言動や対応が生じた場合は注意し合ったり、ミーティング時に振り返りを行い全職員が尊重した対応が出来るように心掛けている。日々の記録や利用者情報の管理も責任ある取り扱いを行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類を選ぶ時等、様々な場面で職員の方からも働きかけながら自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「職員のペースではなく入居者様のペースで」という目標を掲げ実践しようと心がけているが、一日の流れの中では対応しきれない場面もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の着衣や外出の際のみだしなみ等、整えられる様に支援している。またお化粧品等についてもその人らしくいられる様、支援、配慮をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切る、和える、盛り付け、配膳、お茶入れ、米研ぎ等お願いしたり、入居者様から「手伝いましょうか」と声を掛けていただく事あり。食事の準備等には複数の入居者様から関わっていただいている。	食事の準備や後片付けは利用者と共に行なっている。利用者が無理なく出来る手伝いが始まり、個々の能力を引き出し大事にしている。利用者と職員が同じテーブルで会話しながら食事できる雰囲気作りを醸し出している。献立は法人内で作成しているが、日曜日はお任せメニューで外食や弁当、出前や行事食を楽しむ機会を設けて食べる喜びを企画している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の食事量のチェックや水分摂取量のチェックは一日を通して行っている。これを基に個々に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態を見極め毎食後全員に歯磨きの支援を行っている(声掛け、促し、見守り、一部介助、全介助)。また、毎晩、義歯洗浄剤を使用する場合の支援も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗が少なくなる様、本人の動作や仕草で気付く事や時間を見て声掛けを行う等、支援をしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。一人ひとりの習慣やサインを受け入れ、さりげない声かけや時間誘導にも気を配り、羞恥心に配慮して、紙パンツやパット交換時にも本人のこだわりを大切に適切な支援が出来るように全職員が統一した介護方法を修得している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量のチェックは必ず行い、薬剤ばかりに頼る事の無いよう個々に応じた取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	安全面や職員配置の問題もあり時間帯の制限はあるが、できる限り個々の希望やタイミングに合わせて入浴は行っている。	入浴は週二回を基本としているが時間帯の制限はなく、本人の意向に添った入浴が出来るように支援している。同性介助を希望する利用者の心情も大切にしている。浴室内は明るく、補助具も整い安全に寛いだ気分で入浴できるように努めている。季節に応じた変わり湯を取り入れて入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に自由に過ごしていただいている。レクリエーション等も強制する事なく個々の意思を尊重している。但し、夜間の睡眠を気持ちよくしていただく為に昼間の活動への参加促しは行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居室担当者は薬剤情報の把握に努め、変化等があった際は全職員に発信し情報の共有を図っている。また、カンファレンスや医療連携表等でもかかりつけ医と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や日々の様子を観察し、会話等の中からヒントを見つけ楽しみや気分転換ができる様、個々に合わせた働きかけを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候や個々の気分に応じて外出の支援ができるように努めている。散歩や買い物等その都度気分転換を図っている。また希望に添えるよう家族に相談したり行事として立案するなど協力しながら支援している。	一人ひとりの希望に応じた外出は可能である。外出の年間行事計画があり、月一回は外出を企画している。季節の行事やドライブ、買い物や散歩など屋外に出て気分転換を図っている。また家族からの協力もあり、外出や外食もされ楽しい時間を過ごせている。事業所では外の空気に触れる機会を多く企画して、思い出作りの写真を撮って、楽しく元気で過ごしている様子を「ふれあい便り」に載せ、月一回の情報提供時に郵送して家族にも配布している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを預かっており必要な日用品等は、外出時に買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り扱いの難しい方が多い為、取り次ぐ事や電話をかける為の支援はその都度職員が行っている。中には携帯電話を持っている方もいる。また、手紙の投函や必要物品の準備等の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に季節の花々を飾ったり季節感のある飾りをホール内に施すようにしている。装飾については派手すぎない柔らかい雰囲気のを飾るよう心掛けている。日中は日当たりが良く明るい空間となっている。	共用空間は明るく、各部屋に繋がる廊下の天井は吹き抜けで木の温もりを感じる。リビングには厨房があり、利用者と共に調理して匂いや音を感じたりと心地良い生活感が窺える。玄関にはスロープを設置して出入りも安全である。所々にソファを配置し好きな場所で寛いだり、テレビを見たりと一人ひとりが居心地よく過ごせる工夫をしている。室内の温度調整も管理され、快適な環境で安心できる生活の場となっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースにはテーブル、イスの他ソファが置いてあり思い思いの場所で過ごせる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や道具等、自由にお持ちいただいている。	本人、家族の希望する馴染みの家具や写真、装飾品の持ち込みは自由であり、生活様式が大きく変わらないように、その人らしい居室作りに配慮している。日々の部屋の掃除は利用者個々の出来る能力を活かし、自立した生活が送れるように支援している。週一回のリネン交換時には職員が改めて部屋の掃除をして環境整備も実施している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	料理作り、配膳、掃除、洗濯たたみ等、個々の「できること」「わかること」を活かし自立した生活が送れるように工夫している。		